

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホームしらさぎ
所在地	松山市会津町1-19
自己評価作成日	平成21年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 9月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議を通じて、地域とのつながり密にしておくこと。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の方がほとんどで、訪問者も多く交流の輪が広がっている。地域との関わりは、運営推進会議の深まりと共に広がってきており、期待できる。食事は、季節の野菜中心に調理され、利用者の満足度も高い。男性職員も含め職員間の仲がよく、息のあったケアが提供されている。家庭菜園で夏野菜作りに励んだり、にがうりを窓際に植え緑のカーテンを作ったりしながら、利用者との良好な信頼関係が築かれている。利用者の穏やかな笑顔と職員の優しい対応、丁寧な言葉遣いから、理念である「自分らしく」を重んずるケアの実践が感じ取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしらさぎ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 西村 里美

評価完了日 平成21年 8 月 11 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の「自分らしく」を尊重し、利用者様の意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 入居後も今まで築きあげた生活がその人らしくできるよう見守っていくことを職員は常に意識し、共有している。「自分らしく」をケアに反映するために、家族や馴染みの人たちとの関わり、地域との関係を大切に考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの幼稚園との交流、市民大清掃等への参加に心かけている。	
			(外部評価) 老人クラブ会長の協力を得ることができ、地域との繋がりがスムーズに広がっている。幼稚園児の訪問等は利用者にも好評である。ホーム前の清掃は自主的に毎月行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 散歩時等、挨拶にて交流を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回開催している。行事を1カ月に1回開催し、そのとき家族会も行って交流を図っている。	
			(外部評価) 地域の理解や支援を得るための貴重な会議になっていることは議事録からも受け取れる。参加者からの的確なアドバイスを頂くことも多く有効に活用されている。	会議が現状報告、改善点にとどまることなく、一層積極的な取り組みについての話し合いがなされることで、地域に開かれたホームづくり、また職員も参加できる体制づくりなどの検討も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の介護保険課の担当の方より意見を伺い実践している。	
			(外部評価) 市の介護保険課の担当者から新しい情報を提供してもらったり、課題解決のために相談に乗ってもらうなど良好な関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月1回のミーティング時や申し送り時に職員間で意見を出し合い、身体拘束についての話し合いをしている。	
			(外部評価) 帰宅願望の強い利用者と外に一緒に出掛けるたび、納得できるよう工夫している。ホームの玄関を出ると交通量の多い道路が目の前にあり、安全面を第一に考え玄関の施錠を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 現在、虐待はないが、日々話し合いにて意識向上に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度を利用している利用者があるので、職員の理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、わかりやすく説明し、見学し、納得されてから行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月に一度の家族会にて意見交換している。職員には文書にて報告する。	
			(外部評価) 家族から出された意見や相談に対し、職員は常に速やかに対応している。管理者や職員は家族が要望や意見を言いやすいように声をかけている。出された要望や意見は運営に反映するよう努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全スタッフが参加し、意見や要望、提案を述べて頂き、書面にて報告しているが、職員の発言は少ない。 (外部評価) 月に1回ミーティングを行っており、職員に意見や提案を求めるが、特に新人職員の意見が少ない傾向がみられる。職員が意見を出しやすい雰囲気づくりを検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一定の基準は満たされているが、人員不足、人材不足であり、スタッフ自身のレベルアップが必要である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等回覧し、いつでも参加できるよう声かけしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 週1回、他事業所の代表者とミーティングし、対応している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接で生活状況を把握するように努め、本人の思いや不安を受け止めるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接で、本人・家族にお会いし、心身の状態や生活状態を把握するように努め、意向や不安を聴くようにし、その思いを受け止めるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いや願いを確認し、必要と判断すれば、他事業所と相談している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) グループホームは「第2の家庭である」と言われているが、スタッフと利用者様は家族である。そして利用者様は私達の大先輩であることを全スタッフが共有することである。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族・本人が希望する援助を提供することが大切であり、また、家族、本人の負担を軽減するように援助を提供する。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・友人・馴染みの人で来苑しやすいように、はっきりした声で挨拶する。また、何時も笑顔でケアするように全スタッフに共有する。 (外部評価) 利用者は地域の方が多いため、地域に暮らす家族や親戚、友人との関わりを大切に考え、行事等への参加を促している。コンビニやスーパーや薬局などにも歩いて出掛け、地域でその人らしく生きるための支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の時、レクリエーション時等、利用者様同士の状態が把握できるように歌や会話等で温かなひとときが過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、年賀状、暑中見舞い等を出して、家族との関係を保っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりあいの中で、声かけ、希望等の把握に努めているが、発語のない利用者様については、ご家族と情報交換、相談等を行い対応している。	
			(外部評価) 利用者との信頼関係が深まるにつれ、その人らしく暮らしたいことを言葉や表情から汲み取りやすくなることから担当制を導入しており、利用者の思いや希望、意向等を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個々の利用者様の日常生活パターンリズムを把握し、ADL の向上に役立てるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活リズムを理解し、気付いたことは介護記録に記入し、申し送ることにより全職員が共有できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画書は3カ月に1回作成し、その後そのケアプランが有効か無理はないかをサービス担当者会議で話し合い、家族、本人の承認を得ている。	
			(外部評価) 立案した介護計画を家族にも確認してもらい印鑑をもらっている。1か月に1回は評価をして課題を整理し、利用者の現状に合った内容に見直している。今後は、介護計画に入れて欲しいことを、今以上に家族から聞くことが出来る方法について検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプラン実施が出来るように、何時に何をするとという確認表を作成し、計画を有効に活かせるよう工夫している。個別記録も毎日丁寧に記入出来ている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 月に一度、行事を行っており、家族との交流の場とし、気楽に話しかけができるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の清掃に参加したり、月1回の行事には地域の方々に案内書を配布したり参加して頂いている。地域の幼稚園との交流も定期的に行っている。現在は折り紙のボランティアにも月1回来て頂き、利用者様も楽しみにしておられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。か かりつけ医の往診が2週間に1度あり、変化があれば 定期往診以外にも可能である。 (外部評価) 母体である医療機関をはじめ他の医療機関も利用者や 家族の意志で自由に受診することができる。また、認 知症の専門医にも診察してもらえるようになってお り、利用者や家族は安心である。歯科や眼科の受診も 適切にできる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者様の健康や状態 変化に応じた支援を行えるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院した場合、入院先の担当医と情報交換 を行っている。退院に向けて家族と病院関係者と連携 をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ターミナルケアについては、早期の段階で本人、家族 の希望を取り入れ、主治医の指示を受けている。ター ミナルケアは本人の尊厳にかかわることであり、綿密 に行っている。 (外部評価) 現在、終末期を迎えている利用者があり、家族や医 師、看護師等の関係者と連携を取りながら、早期から 話し合いを行わない状況に合わせた最良の方針が図られ ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師に連絡するよう連絡網はできているが、訓練は定期的に行われていないため、今後実施していく必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など定期的には行っているが、もっと積極的に取り組む必要がある。 (外部評価) 年2回の訓練を実施する予定である。昼間想定訓練はしているが夜間想定は行っていない。	運営推進会議で議題として取り上げ、地域の協力も得ながら進めることが望ましい。備蓄についても、職員間で協議し、何をどこに置くのか等の具体的な話し合いが求められる。夜間想定訓練の検討、実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対して言葉使い、接する態度、顔の表情等毎日のケアの中に取り入れ、プライバシーを守っている。 (外部評価) 利用者に対する声かけ（呼び方や内容、語調等）には細心の注意を払っており、利用者一人ひとりを優しく温かく見守る姿勢が言葉かけから感じ取れる。また居室に入る時は必ずノックをし許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の気持ちや希望を十分に考慮し、今後自己決定できるように支援していくことが必要である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の大まかな流れはあるが、一人一人の希望やその日の体調を考慮して個々の利用者様のペースに添った支援をする様、努めている。今後はもっと余裕をもって接していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月1回訪問美容に来て頂いている。利用者様の着替え等は、本人や家族に確認をとり行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様の好物を聞き、献立に取り入れている。自立している利用者様は食器洗い等を手伝って頂いているが、重度の認知症の利用者様が多いので難しい。昼食は利用者様と同じメニューを頂いている。 (外部評価) 栄養士が作成した献立をベースに、利用者の希望を取り入れ、利用者の状態に合わせて適切なメニューにするなどの工夫をしている。利用者は玉ねぎの皮をはいたり、ちらし寿司を作る時にはうちわで扇ぐなど、出来る事を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取状況をチェック、記録して職員が情報を共有している。本人の嚥下状況に合わせた調理方法を工夫している。管理栄養士の立てたメニューを利用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面の自立している人、介助の人、全員口腔ケアは行っている。義歯も入眠時外している。口腔内の残渣物には注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様の状況によって、時間、習慣を見極め、トイレ誘導、見守り介助を行う。可能な限りトイレにて排泄を行う。	
			(外部評価) 「利用者の状態を維持する」ことを目標にしている。尿意のない利用者も時間で誘導している。管理者や職員は自立に向けた支援をしたいと考えており、夜間は特にそばにつき添って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) できるだけ自然排便できるように、冷たい牛乳を飲んだり、腹部マッサージ、身体を動かす機会を適度に保っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴予定表を作成して、それに沿って実施している。入浴拒否される利用者様には色々と声かけを行う。発汗の多い人などは予定外の入浴を行っている。	
			(外部評価) 機械浴の利用者には、同法人内の設備を利用して週2回の入浴を実施している。利用者の希望に応じて16時からの入浴を毎日3人ずつ行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、活動することで、生活リズムを確保するよう工夫している。また、日中も状態を見ながら休息を促している。夜間の徘徊や不眠時は主治医と相談の上、眠剤を処方して頂いてる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録に服薬の取り扱いや薬の内容が書かれており、全職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 気分転換出来るよう、レクリエーションで歌を歌ったり、ボール遊び、リハビリ体操を実施している。洗濯物たたみ、掃除等できる利用者様には声かけて手伝ってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援は出来る日と出来ない日がある。本人が行きたい所は家族の協力を得て、出かけるようにしている。普段は行けない所への外出支援に（足湯やドライブ等）取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 気分転換に近所の公園に行き、近所の方とあいさつを交わしたり日常会話を楽しんでいる。天気の良い日は1日30分程度の散歩や買い物にも行く。ドライブ等の遠出は車の確保が難しいため困難であるが、家族の支援やボランティアの協力を求めながら行っていく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は本人は所持しないようにしているが、自分で管理能力がある人のみ所持している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状などの希望を聞いて、書かれる利用者様は書いて頂いている。いつでも電話がかけられるように、1階に公衆電話を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 南側が前面窓ガラスになっており、明るい陽射しが差し込み、レースのカーテンで光を調節している。居室のドアには、各自の名前プレートを掛け、トイレも貼紙をして利用者様が混乱しないように対処している。共用空間にメダカ、季節の花等飾り付けで利用者様と一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 南側の大きな窓から適度な光が差し込み、明るい。トイレの便座には背もたれがあり、安定して座ることができる。廊下は広くゆったりしており、懐かしい曲が流れ利用者は口ずさんでいる。観葉植物等も飾られている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルには各利用者様の名前が貼られている。気の合った利用者様同士で食事が出来るように工夫したり、孤立した利用者様には関係改善の工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはイベントに参加された時の写真を飾り付けしている。入居前の面接時、家族に以前から使用していた物品を持ち込んで頂けるように促している。</p> <p>(外部評価) 懐かしい思い出の写真や品物など、一人ひとりにとって大切で必要な品々が家族の協力のもと持ち込まれ、落ち着ける居室空間が作り上げられている。自宅との環境のギャップを少なくするよう職員も工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレを認識できるように、トイレに貼紙をしている。 見守りが必要な利用者様には詰所の横の窓つきの部屋を用意している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホームしらさぎ
所在地	松山市会津町1-19
自己評価作成日	平成21年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 9月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議を通じて、地域とのつながり密にしておくこと。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の方がほとんどで、訪問者も多く交流の輪が広がっている。地域との関わりは、運営推進会議の深まりと共に広がってきており、期待できる。食事は、季節の野菜中心に調理され、利用者の満足度も高い。男性職員も含め職員間の仲がよく、息のあったケアが提供されている。家庭菜園で夏野菜作りに励んだり、にがうりを窓際に植え緑のカーテンを作ったりしながら、利用者との良好な信頼関係が築かれている。利用者の穏やかな笑顔と職員の優しい対応、丁寧な言葉遣いから、理念である「自分らしく」を重んずるケアの実践が感じ取れる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通じて、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしらさぎ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 西村 里美

評価完了日 平成21年 8月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の「自分らしく」を尊重し、利用者様の意見を聞くようにしている。	
			(外部評価) 入居後も今まで築きあげた生活がその人らしくできるよう見守っていくことを職員は常に意識し、共有している。「自分らしく」をケアに反映するために、家族や馴染みの人たちとの関わり、地域との関係を大切に考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近くの幼稚園との交流、市民大清掃等への参加に心かけている。	
			(外部評価) 老人クラブ会長の協力を得ることができ、地域との繋がりがスムーズに広がっている。幼稚園児の訪問等は利用者にも好評である。ホーム前の清掃は自主的に毎月行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 散歩時等、挨拶にて交流を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を2カ月に1回開催している。行事を1カ月に1回開催し、そのとき家族会も行って交流を図っている。	
			(外部評価) 地域の理解や支援を得るための貴重な会議になっていることは議事録からも受け取れる。参加者からの的確なアドバイスを頂くことも多く有効に活用されている。	会議が現状報告、改善点にとどまることなく、一層積極的な取り組みについての話し合いがなされることで、地域に開かれたホームづくり、また職員も参加できる体制づくりなどの検討も期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の介護保険課の担当の方より意見を伺い実践している。	
			(外部評価) 市の介護保険課の担当者から新しい情報を提供してもらったり、課題解決のために相談に乗ってもらうなど良好な関係が築けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月1回のミーティング時や申し送り時に職員間で意見を出し合い、身体拘束についての話し合いをしている。	
			(外部評価) 帰宅願望の強い利用者と外に一緒に出掛けるたび、納得できるよう工夫している。ホームの玄関を出ると交通量の多い道路が目の前にあり、安全面を第一に考え玄関の施錠を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 現在、虐待はないが、日々話し合いにて意識向上に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度を利用している利用者があるので、職員の理解はできている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、わかりやすく説明し、見学し、納得されてから行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月に一度の家族会にて意見交換している。職員には文書にて報告する。	
			(外部評価) 家族から出された意見や相談に対し、職員は常に速やかに対応している。管理者や職員は家族が要望や意見を言いやすいように声をかけている。出された要望や意見は運営に反映するよう努力をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全スタッフが参加し、意見や要望、提案を述べて頂き、書面にて報告しているが、職員の発言は少ない。 (外部評価) 月に1回ミーティングを行っており、職員に意見や提案を求めるが、特に新人職員の意見が少ない傾向がみられる。職員が意見を出しやすい雰囲気づくりを検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 一定の基準は満たされているが、人員不足、人材不足であり、スタッフ自身のレベルアップが必要である。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等回覧し、いつでも参加できるよう声かけしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 週1回、他事業所の代表者とミーティングし、対応している。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接で生活状況を把握するように努め、本人の思いや不安を受け止めるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面接で、本人・家族にお会いし、心身の状態や生活状態を把握するように努め、意向や不安を聴くようにし、その思いを受け止めるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の思いや願いを確認し、必要と判断すれば、他事業所と相談している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) グループホームは「第2の家庭である」と言われているが、スタッフと利用者様は家族である。そして利用者様は私達の大先輩であることを全スタッフが共有することである。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族・本人が希望する援助を提供することが大切であり、また、家族、本人の負担を軽減するように援助を提供する。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・友人・馴染みの人で来苑しやすいように、はっきりした声で挨拶する。また、何時も笑顔でケアするように全スタッフに共有する。 (外部評価) 利用者は地域の方が多いため、地域に暮らす家族や親戚、友人との関わりを大切に考え、行事等への参加を促している。コンビニやスーパーや薬局などにも歩いて出掛け、地域でその人らしく生きるための支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の時、レクリエーション時等、利用者様同士の状態が把握できるように歌や会話等で温かなひとときが過ごせるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、年賀状、暑中見舞い等を出して、家族との関係を保っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりあいの中で、声かけ、希望等の把握に努めているが、発語のない利用者様については、ご家族と情報交換、相談等を行い対応している。 (外部評価) 利用者との信頼関係が深まるにつれ、その人らしく暮らしたいことを言葉や表情から汲み取りやすくなることから担当制を導入しており、利用者の思いや希望、意向等を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個々の利用者様の日常生活パターンリズムを把握し、ADL の向上に役立てるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活リズムを理解し、気付いたことは介護記録に記入し、申し送ることにより全職員が共有できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画書は3カ月に1回作成し、その後そのケアプランが有効か無理はないかをサービス担当者会議で話し合い、家族、本人の承認を得ている。	
			(外部評価) 立案した介護計画を家族にも確認してもらい印鑑をもらっている。1か月に1回は評価をして課題を整理し、利用者の現状に合った内容に見直している。今後は、介護計画に入れて欲しいことを、今以上に家族から聞くことが出来る方法について検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプラン実施が出来るように、何時に何をするという確認表を作成し、計画を有効に活かせるよう工夫している。個別記録も毎日丁寧に記入出来ている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 月に一度、行事を行っており、家族との交流の場とし、気楽に話しかけができるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の清掃に参加したり、月1回の行事には地域の方々に案内書を配布したり参加して頂いている。地域の幼稚園との交流も定期的に行っている。現在は折り紙のボランティアにも月1回来て頂き、利用者様も楽しみにしておられる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけ医になっている。か かりつけ医の往診が2週間に1度あり、変化があれば 定期往診以外にも可能である。</p> <p>(外部評価) 母体である医療機関をはじめ他の医療機関も利用者や 家族の意志で自由に受診することができる。また、認 知症の専門医にも診察してもらえるようになってお り、利用者や家族は安心である。歯科や眼科の受診も 適切にできる体制が整っている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者様の健康や状態 変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院した場合、入院先の担当医と情報交換 を行っている。退院に向けて家族と病院関係者と連携 をとっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ターミナルケアについては、早期の段階で本人、家族 の希望を取り入れ、主治医の指示を受けている。ター ミナルケアは本人の尊厳にかかわることであり、綿密 に行っている。</p> <p>(外部評価) 現在、終末期を迎えている利用者があり、家族や医 師、看護師等の関係者と連携を取りながら、早期から 話し合いを行わない状況に合わせた最良の方針が図られ ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師に連絡するよう連絡網はできているが、訓練は定期的に行われていないため、今後実施していく必要がある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方など定期的には行っているが、もっと積極的に取り組む必要がある。 (外部評価) 年2回の訓練を実施する予定である。昼間想定訓練はしているが夜間想定は行っていない。	運営推進会議で議題として取り上げ、地域の協力も得ながら進めることが望ましい。備蓄についても、職員間で協議し、何をどこに置くのか等の具体的な話し合いが求められる。夜間想定訓練の検討、実施が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対して言葉使い、接する態度、顔の表情等毎日のケアの中に取り入れ、プライバシーを守っている。 (外部評価) 利用者に対する声かけ（呼び方や内容、語調等）には細心の注意を払っており、利用者一人ひとりを優しく温かく見守る姿勢が言葉かけから感じ取れる。また居室に入る時は必ずノックをし許可を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の気持ちや希望を十分に考慮し、今後自己決定できるように支援していくことが必要である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1日の大まかな流れはあるが、一人一人の希望やその日の体調を考慮して個々の利用者様のペースに添った支援をする様、努めている。今後はもっと余裕をもって接していきたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月1回訪問美容に来て頂いている。利用者様の着替え等は、本人や家族に確認をとり行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様の好物を聞き、献立に取り入れている。自立している利用者様は食器洗い等を手伝って頂いているが、重度の認知症の利用者様が多いので難しい。昼食は利用者様と同じメニューを頂いている。 (外部評価) 栄養士が作成した献立をベースに、利用者の希望を取り入れ、利用者の状態に合わせて適切なメニューにするなどの工夫をしている。利用者は玉ねぎの皮をはいたり、ちらし寿司を作る時にはうちわで扇ぐなど、出来る事を行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事や水分摂取状況をチェック、記録して職員が情報を共有している。本人の嚥下状況に合わせた調理方法を工夫している。管理栄養士の立てたメニューを利用している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面の自立している人、介助の人、全員口腔ケアは行っている。義歯も入眠時外している。口腔内の残渣物には注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様の状況によって、時間、習慣を見極め、トイレ誘導、見守り介助を行う。可能な限りトイレにて排泄を行う。	
			(外部評価) 「利用者の状態を維持する」ことを目標にしている。尿意のない利用者も時間で誘導している。管理者や職員は自立に向けた支援をしたいと考えており、夜間は特にそばにつき添って支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) できるだけ自然排便できるように、冷たい牛乳を飲んだり、腹部マッサージ、身体を動かす機会を適度に保っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴予定表を作成して、それに沿って実施している。入浴拒否される利用者様には色々と声かけを行う。発汗の多い人などは予定外の入浴を行っている。	
			(外部評価) 機械浴の利用者には、同法人内の設備を利用して週2回の入浴を実施している。利用者の希望に応じて16時からの入浴を毎日3人ずつ行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、活動することで、生活リズムを確保するよう工夫している。また、日中も状態を見ながら休息を促している。夜間の徘徊や不眠時は主治医と相談の上、眠剤を処方して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人記録に服薬の取り扱いや薬の内容が書かれており、全職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 気分転換出来るよう、レクリエーションで歌を歌ったり、ボール遊び、リハビリ体操を実施している。洗濯物たたみ、掃除等できる利用者様には声かけて手伝ってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的な外出支援は出来る日と出来ない日がある。本人が行きたい所は家族の協力を得て、出かけるようにしている。普段は行けない所への外出支援に（足湯やドライブ等）取り組んでいきたい。	
			(外部評価) 気分転換に近所の公園に行き、近所の方とあいさつを交わしたり日常会話を楽しんでいる。天気の良い日は1日30分程度の散歩や買い物にも行く。ドライブ等の遠出は車の確保が難しいため困難であるが、家族の支援やボランティアの協力を求めながら行っていく予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は本人は所持しないようにしているが、自分で管理能力がある人のみ所持している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 年賀状などの希望を聞いて、書かれる利用者様は書いて頂いている。いつでも電話がかけられるように、1階に公衆電話を設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 南側が前面窓ガラスになっており、明るい陽射しが差し込み、レースのカーテンで光を調節している。居室のドアには、各自の名前プレートを掛け、トイレも貼紙をして利用者様が混乱しないように対処している。共用空間にメダカ、季節の花等飾り付けで利用者様と一緒に楽しんでいる。</p> <p>(外部評価) 南側の大きな窓から適度な光が差し込み、明るい。トイレの便座には背もたれがあり、安定して座ることができる。廊下は広くゆったりしており、懐かしい曲が流れ利用者は口ずさんでいる。観葉植物等も飾られている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) テーブルには各利用者様の名前が貼られている。気の合った利用者様同士で食事が出来るように工夫したり、孤立した利用者様には関係改善の工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室にはイベントに参加された時の写真を飾り付けしている。入居前の面接時、家族に以前から使用していた物品を持ち込んで頂けるように促している。</p> <p>(外部評価) 懐かしい思い出の写真や品物など、一人ひとりにとって大切で必要な品々が家族の協力のもと持ち込まれ、落ち着ける居室空間が作り上げられている。自宅との環境のギャップを少なくするよう職員も工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレを認識できるように、トイレに貼紙をしている。 見守りが必要な利用者様には詰所の横の窓つきの部屋を用意している。</p>	